

(お知らせ)

定期検査中の柏崎刈羽原子力発電所4号機における
原子炉自動スクラム信号(B系)の誤発生について

平成17年3月15日
東京電力株式会社
柏崎刈羽原子力発電所

当所4号機(沸騰水型、定格出力110万キロワット)は、平成16年8月7日より第8回定期検査中ですが、中間領域モニタ¹の検査を実施していたところ、昨日午後5時50分頃、原子炉自動スクラム信号(B系)²が誤って発生いたしました。

原因を調査したところ、当該検査中に不要な警報が発生しないように電気回路上の事前処置を実施しておりましたが、この処置の解除手順を誤ったことから、警報が発生したことがわかりました。

なお、原子炉は全制御棒が全挿入状態となっているため安全上の問題はありません。

これによる外部への放射能の影響はありません。

以上

1：中間領域モニタ

原子炉の起動・停止時に、原子炉出力の低い状態で中性子量を測定するための監視装置。

2：原子炉自動スクラム信号(B系)

原子炉を緊急停止するための信号。今回は片系(B系)だけ発生した状態であり、制御棒は動作しない。スクラム信号はA・B両系が同時に発生することで全制御棒を全挿入し、原子炉を緊急停止させる。